

街と自然の コントラスト散歩



▲街中にも緑が豊富な流山おおたかの森。



▲流山おおたかの森南口公園の手入れの行き届いた花々。

自然 散歩



▲市野谷の森公園の空を覆うほど高い木々。

駅前の喧騒から一歩踏み出すと、

この街には青々とした自然がごく当たり前の風景として存在している。

整備された大通りから一本わき道に入ると、

足元に広がる季節の草花が、自然の豊かさを身近に感じさせてくれる。

都市の快適さと自然の安らぎ、その両方を一度に味わえるのが流山おおたかの森ならではの魅力である。

▼木々が生い茂る市野谷の森公園。

▼笹が絡まる電柱。▼入口の看板。



市野谷の森公園

南口から住宅街の合間を縫うように進んでいくと、やがて視界を覆うほどの深い木立に囲まれた「市野谷の森公園」に着く、ここはオオタカが生息する森を守るために整備された公園で、静かで落ち着いた空気が漂っていた。森の中をくぐるように続く道は、一歩進むごとに木漏れ目の模様が変わり、足元から伝わる土の香りが心地よい。都市の喧騒を忘れ、散歩そのものに没頭できる魅力的な場所であった。



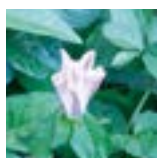
散歩ルートMAP

4 流山おおたかの森 南口公園

「流山おおたかの森S・C」の広場を抜けた先には、開放的な芝生が広がる「流山おおたかの森南口公園」がある。駅前の舗装された道から柔らかな芝生へと足元が変わることで、ここから本格的な散歩が始まるようなわくわく感があつた。午前の静けさとは打って変わり、お昼ごろになると近所の小学生や、家族連れでにぎやかになる。広場を緑取るように整備された遊歩道はとても歩きやすく、ベンチに腰掛けて駅前の活気を眺めたり、駅前で買ったフードを食べて休憩したりするのに最適だ。



▲流山おおたかの森南口公園と銅管柱。



▲自生するアサガオ。

街 散歩

流山おおたかの森駅は江戸川大学の最寄り駅であり、私はふだんから通学のため利用している。しかし、実際に歩いてみると、気が付かなかった景色や新たな発見が多くあり、駅周辺の魅力をあらためて感じる事ができた。

流山おおたかの森S・C

東武アーバンパークラインの改札を出て、左に進む。目の前のエスカレーターを降りると、大きな建物が広場を開くように建っている。これが「流山おおたかの森S・C」だ。私たちが散歩した平日の昼下がりにも、多くの人でにぎわっていた。ショッピング施設も充実しており、アパレルショップや雑貨店、飲食店、映画館などがあり、家族や友人と一日中楽しむことができる。また、スーパーマーケットも併設されているため、一つの施設で買物を済ませることができる魅力である。緑豊かな「森のまち広場」では、学校帰りの高校生たちがベンチに座って話していたり、夫婦で犬の散歩をしていたりと、さまざまな人たちが思い思いの時間を過ごしていた。時間を気にせず、外でのんびりと過ごせる魅力的な場所だ。



▶流山おおたかの森駅北口広場



流山おおたかの森COTOE

流山おおたかの森駅の西出口から徒歩4分の場所には、ショッピングモール「COTOE(コトエ) 流山おおたかの森」がある。施設はCOTOE1、COTOE2の二つの建物で構成されている。16時頃、COTOE1のベーカーリー「クローンメ」のお菓子の森でパンを買って食べていると、子どもを連れた母親の姿が多く見られた。COTOE2はレストランのみで構成されている。そのため、食事をしたい人はCOTOE2に行けばよく、目的に応じて利用する建物を使い分けることができる。



2 道端のベンチで いつでも小休憩。



▲人通りの少ない道路にひっそりとたたずむベンチ。

歩き疲れたときは、道端のベンチで一休み。流山おおたかの森駅周辺の各所に設置されているベンチは、一つひとつ違った特徴があり、ベンチごとに違った雰囲気を楽しめるのも、この街の魅力の一つである。



スバメツツア おおたかの森 竜泉寺の湯

流山おおたかの森駅の西出口から徒歩2分の場所にある「スバメツツア おおたかの森」は、関東最大級のスパ&サウナ施設である。建物の壁には千葉県内1001位と書かれた大きな垂れ幕が掛けられており、その人気の高さがうかがえた。

流山おおたかの森

コントラストさんぽ

▲流山おおたかの森S・C。



初石で見つけた 「いいもの」

①初石 42 号公園に住んでいる水色の恐竜。42 号公園は、この恐竜と鉄棒だけの小さな公園。

②初石駅東口を出てすぐに見えるサンドイッチ屋「coloré」の看板。朝 7 時から営業している。

③アンダーパスを見上げた先にあったツタ。コンクリートと緑の組み合わせはなんだかスタイリッシュ。

④ゴルフ練習場の近くで見つけたどんぐり。いくつになっても、どんぐりを見るとなぜか気分が上がる。

⑤ネパール料理「ロータス」のランチセット。巨大なナンはおかわり無料で、税込み 880 円という手頃さも魅力。

⑥令和の時代に珍しい 100 円自販機。どこか懐かしいラインナップで、思わず足を止めたくなる。

⑦⑧アンダーパスの壁に描かれたグラフィティ。どんな意味が込められているのだろう。

⑨パン屋「小倉ベーカリー」のレモンクロワッサン。レモンの風味がさわやかで、まったく重くない。

⑩パン屋「小倉ベーカリー」の大葉ウインナーパン。総菜パンも食べ応え抜群で 3 時のおやつにもぴったり。

⑪サンドイッチ屋「coloré」のパイナップル杏仁サンドイッチ。見た目のインパクトも味も満点の一品。

⑫ 5 月 18 日の何時に何がオープンするのかまったくわからない張り紙。こういうものを見つけるのが散歩の醍醐味。

⑬こんぴら緑地で見かけた子ども用自転車。日曜日の朝になると、自転車に乗った子どもたちが集まってくる。

⑭初石駅から徒歩 8 分の場所にある、そば処「すず季」の看板。松の木がとても立派で風情を感じる。

⑮初石 35 号公園に住んでいる鳥（のようなもの）。かなり年季が入っている。



初石、そこは小さな街。

仕事や学校、あくせく流れる日常に疲れたら、東武アーバンパークラインに揺られて千葉県流山市にあるこの街を目指すのはどうだろう。ガタゴトと電車で揺られていると、窓の外の景色がだんだん穏やかになっていくことに気付く。そこにはきっと、私たちが忙しさのなかで見逃してしまう、たくさんの「いいもの」があふれているはずだから。

まず向かいたい場所。

「次は初石、初石です」。車掌独特の節回しのアナウンスが聞こえたら、それが散歩開始の合図だ。駅の改札を出たら、まずはどこへ向かおう。真っ先に向かいたいのは、駅前にある売り切れ御免のサンドイッチ屋「coloré（コロレ）」好きなサンドイッチを手に入れたら、その先にあるクロワッサンがおいしいパン屋「小倉ベーカリー」にも足を運ぶ。ポイントカードにスタンプを押してもらったら、少しだけ足を延ばして緑の豊かな公園へ向かおう。

地図を見ない散歩。

ベンチに腰掛け、買ったばかりのサンドイッチとクロワッサンを取り出す。おいしいパンと緑の豊かな公園があれば、一人ピクニックはいつでもできる。次はレジャーシートも持ってこよう。そのあとのルートは完全に気分次第。心が満たされたなら引き返してもいい。もう少し冒険したいなら、地図を見ずに気の向くまま歩けばいい。ふと目に留まった看板や、季節を感じる植物にハッとする。誰も気に留めないような町の余白に、自分だけの「いいもの」を見つける楽しさがここにはある。誰かのためじゃない、自分の歩幅で思うままに。さあ、初石をひとまわり。

「いいもの」マップ

